





# 健康と医療相談

## 「糖尿病」の名称変更について



医師

ここにしたり

### 病名が偏見や差別を生んでいる

日本糖尿病協会は「糖尿病」という名称の変更を検討する方針を明らかにしました。今後1～2年のうちに新たな病名を提案したいとのことです。清野裕理事長は、「糖尿病に対する誤った認識が偏見を助長し、差別を生んでいる」と指摘しています。偏見の一例として「生命保険や住宅ローンに加入できない」「就職が不利になった」「怠け者のような目で見られる」などと指摘しました。

### 生活習慣病という名称も偏見の元

世界では生活習慣病という言葉は受け入れられていません。高血圧は塩分の取り過ぎが原因、血圧が上がるのは性格の問題、糖尿病の人は糖が尿に溢れるくらい甘いものを食べている。これらは当たっている面もありますが、当てはまらない要因の血圧や血糖が高い人も大勢います。「高血圧」や「糖尿病」の主な原因を生活習慣のせいにするのは科学的でなく、生活習慣病という名称の使用をやめるべきと東京大学の社会医学教授の橋本英樹は指摘しています。

### 「糖尿病」名称変更の理由

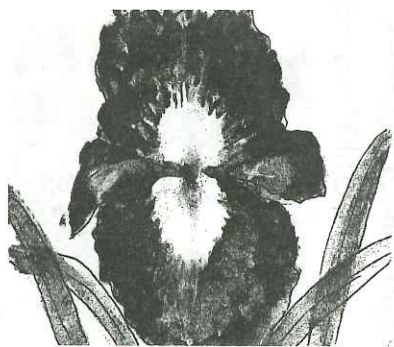
先述したように、「糖尿病」という名前が、糖分を摂り過ぎることで発症する病気という印象を与えてしまうことです。糖尿病は生活習慣とは関係なく発症してしまうこともあるという認識を持ってもらう必要があります

また、具体的な症状がイメージしにくいという問題があります。尿に糖がでることは糖尿病の病態の一つにすぎません。糖尿病で本当に恐ろしい点は、症状がないまま全身の小さい血管にダメージが蓄積し、だんだんと命を脅かすことにあります。末梢神経障害、腎症、網膜症は糖尿病の3大合併症です。一方、免疫も低下し、コロナ禍で亡くなる人が続出しましたし、がんが多いことも医療人は知っています。これほど怖い病気が、「尿に糖が出る病気」と命名されていることは正しいとはいえません。

糖尿病専門医の間では、「高血糖症」、「高血糖症候群」、「糖代謝異常症」、「糖血病」、「糖不全」などが新しい名称の候補となっています。

### 純子のスケッチブック

## 『ジャーマンアイリス』



はがき絵  
5月に咲く花

花言葉「使者」「恋のメッセー  
ジ」虹の花と呼ばれるように  
色とりどりの虹を咲かせま  
す。ギリシャ神話の虹の女神  
アイリスが名前の由来です。



# ポートアイランド南公園 住民要求も反映したリニューアル工事に

南公園のリニューアル工事が始まっています。建築関係では公園の北西トイレがすべてが様式と多目的トイレに。また南東トイレが北東に移転して新築され洋式、多目的トイレになります。噴水もポンプが整備され機能を回復します。更に、土木関係では住民からの要望に基づき、段

## 阪急春日野道駅西口が開設 エレベーターとホームドアが設置されました

住民の願いであった阪急春日野道のバリアフリー化工事が完成し、阪急春日野道西口が開設されました。永年の住民からの要望に対して、阪急電鉄や神戸市からは技術的に難し

いとの回答を得ていました。しかし、ホームを西に延長して西改札口を設置し、そこからエレベーターでホームまで上がるという仕組みが考案されました。しかも、今回はユニバーサ

ルデザインということで多目的トイレも設置されました。また、ホームの狭さで安全性の問題も従来から指摘されてきました。その安全策として、ホームドアも設置され、安全で快適な阪急春日野道駅に大きく前進しました。住民の願いがようやく届きました。

## クルーズ船が続々神戸に・神戸港発着クルーズ船の誘致を

海外クルーズ船が3月から4月に20回も神戸港に寄港です。コロナ禍前は過去最高で外国船67回、国内船が74回を数えました。船を降りた乗客は京都や奈良にツアーバスで観光する人が多く、神戸市内を観光する人がほとんどいないという問題点を抱えていました。今回はできるだけ、神戸で買い物や観光をしてもらうと言うことで、ポートターミナルと大丸神戸店をつなぐシャトルバスを運行し、元町やセンター街などでの買い物客誘客も企画。また、観光先として酒造りの工程や酒器の見学、試飲など日本酒を知ってもらうツアーなども準備。

従来からあわはら市議が要望している「単なる寄港でなく、上船下船後に神戸に宿泊が期待できる神戸港発着のクルーズ船の誘致」が今後の大きな課題です。これが実現できれば、神戸ビーフや真珠ツアーなど食事や産品を宿泊を伴って企画できることから、経済メリットが出てきます。今回はそのような取組への補助金も検討されています。

## 神戸空襲の絵本「手をはなしたらあかん」をご覧ください

今回の市議選でも支援して頂いた元小学校教師であわはら市議の大学時代の先輩である小城智子さんが神戸空襲の絵本「手をはなしたらあかん」を出版しました。この絵本には聴覚障害であり、神戸空襲で父を亡くした山村さんが、爆撃の音に気付かない怖さ、父と手をつないだ記憶、変わり果てた父と対面した時の悲しみなど、戦争体験や平和への願いが表現されています。各メディアにも紹介されました。1冊1200円。問い合わせは神戸空襲記録する会（神戸学生センター内 078・891・3018